超･快楽ワイヤレス

ブルートゥースインカム
ＢＳＨ－０１
ステレオヘッドセット
取扱説明書

S66666

この度は、「COOLROBO　BSH-01」をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
ご利用の前に、この取扱説明書、及びクイックユーザーマニアル、接続（通信）する機器に付属の取扱説明書を良くお読みいただき、内容をよく理解し、正しくご利用くださいますよう、お願い致します。
又、この取扱説明書及びクイックユーザーマニアルは、いつでも取り出して読めるよう携帯して頂き、この商品を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せてお渡しください。

この取扱説明書は、補修品の（66659）BSH-01-001 レシーバー単品と共通になっています。
文中でのレシーバー本体とは、商品内のレシーバーのみを表しています、又、本品とはこの商品全てを表しています。

■　ご使用前に必ず、ご確認ください■

※　取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任を負いません。

本書では正しい取り付け、取扱方法に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

要件を満たさずに使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。		禁止の行為であることを告げるものです。
	条件次第では法令違反となることを告げるものです。		その他の警告及び注意を告げるものです。
	表記の禁止行為を告げるものです。		表記の禁止行為を告げるものです。

⚠警告

・ 航空機内や病院などでは、電子機器、医療用機器に影響を与える可能性があります、携帯電話等と同様に電源を切ってください。

・ この商品の電波が他の機器の通信に影響を与えている場合は、本体の電源を切り、影響を与えない場所でご利用ください。

・ 本体の分解、改造をしないでください、火災、怪我、感電、故障の原因となります。修理の場合は弊社又はお買い求めの販売店にご相談ください。

・ ガソリンスタンドなど、引火、爆発の恐れがある場所では使用しないでください。

・ 使用中、保管時に異臭、発熱、変色、変形、などが発生した場合は、直ちに使用を中止し、弊社又はお買い求めの販売店にご連絡ください。

・ 大音量で使用しないでください、周囲の交通の音が聞こえる音量で使用してください。事故の原因になる可能性があります。

・ 本体の操作は、停止した状態で行なってください。走行中の操作は事故、転倒に繋がり大変危険です。

・ 携帯電話と同様に運転中の操作は取り締まりの対象となる場合があります。

⚠注意

・ この商品は防水ではありません、付属のレインカバーを使用することで簡易に防水できますが、多量の水がかかった場合、内部に水が侵入する可能性があります。

・ 乳幼児の手の届かない場所に保管してください、付属品には、小さな部品があります。誤って飲み込んだり、怪我の原因になります。

・ 本体に強い衝撃を与えないでください、故障の原因になります。

・ この商品を海外で使用する場合、その国の電波法に従い利用してください。

商品内容の確認

＊　商品内容は、商品購入後すぐにご確認ください、商品内容に不足、不良等がある場合、お手数ですが、当社又はお買い求めの販売店様に、ご連絡願います。

□　レシーバー

□　レインカバー

□　ヘッドセット
ハウジング

□　ヘルメットクランプ
（スプリングフック式）

□　ステレオスピーカー

□　イヤーフック

□　取扱説明書（本書）

□　保証書

□　クイックマニュアル

ご利用の前に

本品は、ブルートゥース通信方式（2.4GHz 帯、デジタル）を利用し、省電力にて通信可能なヘッドセットです。

COOLROBO（クールロボ）の特徴

本品及びブルートゥース対応の携帯電話を使用すれば、ステレオ音楽の視聴、電話の発着信が可能、本商品を２台使用すれば、タンデムでの会話も可能。
又、別売のトランスミッターセットを使用することにより、音楽の再生、ナビゲーションの音声案内、ブルートゥース非対応の携帯電話との接続、ハンディー無線機との接続が可能（全てモノラル再生）。
ブルートゥース対応、市販のステレオトランスミッター、オーディオプレーヤー、無線機（STANDARD 社 FTM-10 等）との直接接続も可能（ステレオ再生可能）。

*機器によっては、ブルートゥース対応でも使用出来ない場合があります。（接続可能な最低条件として、機器のペアリングコード（認証コード、PIN コード）が 0000 又は変更可能な物である必要があります。

*シリアルナンバー「001e9c000c00～」のレシーバーについては、著作権保護「SCMS-T」に対応しています。シリアルナンバーは、レシーバーに表示してあります。

ブルートゥースとは

Bluetooth とは Bluetooth SIG (Special Interest Group)により提唱されている携帯端末向けの短距離無線技術です。Bluetooth 対応機器同士は、ケーブルを使わずにデータ又は音声をやりとりする事が出来ます。
Bluetooth は、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。

ヘルメットへの装着

SHOEI J-FORCE IIIの場合

予めヘルメットの内装（左耳部分）を外しておくと、作業がしやすくなります。

ヘルメットクランプ（スプリングフック式）をヘルメットの左側に仮装着します。

付属の皿ビス（Ｍ２×６Ｌ／４本）を使用し、ヘッドセットハウジングをヘルメットクランプに取付けます。(㊉ドライバー／＃１）

ヘッドセットハウジングのマイクの位置が口元に来るよう、ヘルメットクランプの位置を調整します。

ヘルメットクランプを取付ける位置が決まりましたらその位置を覚えておき、一度ヘルメットクランプを取外して、ヘルメットの外側、及びヘルメットクランプの内側に、付属のマジックテープを貼付けます。

貼付け面が汚れていると充分に貼付けできませんので､脱脂剤等を使用し貼付け面を充分に脱脂してください。

ステレオスピーカーをヘルメット内側に装着します。

付属の面ファスナーを使用し、スピーカー本体をヘルメット内側の、耳に近い部分に貼付けます。

この際、スピーカーの配線は内装の内側に取り回した方が、ヘルメットをかぶる際に邪魔になりにくくなります。

ヘルメットクランプ＆ヘッドセットハウジングを再度装着し、スピーカー側のコネクターとヘッドセットハウジング側のコネクターを接続します。

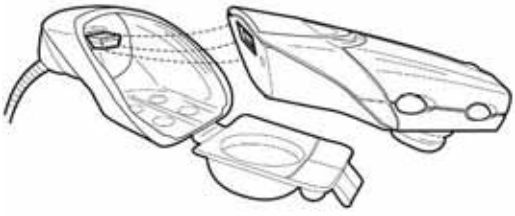
取外した内装を元通りに取付け、装着は完了です。

その他のヘルメットへの取り付け

以上の取り付け例を参考にヘルメットに合わせ、取り付けを行なってください。

ヘルメットクランプ（スプリングフック式）を使用することにより、多くのヘルメットに取り付けが出来るよう設計しておりますが、ヘルメットの種類によっては、装着できない場合があります。特に、内装と帽体が接着されている物、帽体の淵が厚い又は内側に折り込まれているヘルメットには取り付けできない場合がありますでのご注意ください。

レシーバー装着



レシーバー本体の USB コネクターをヘッドセットハウジングの USB コネクターに差し込みます。（コネクターにゴムカバーが装着してあると、差し込みできません。ゴムカバーを取り外して使用してください。）

レシーバー本体を奥まで差し込み、上写真矢印の位置を、指で挟み込むようにして固定します。レインカバー装着時も取り付け方法は同様です。（レインカバー未装着時、ヘッドセットハウジングとレシーバー本体の間に隙間が開きます）

取り外しは、取り付けと逆の手順で行ないますが、ヘッドセットハウジングをしっかりと手で支えながら取り外してください。

⚠注意

ヘッドセットハウジング、ヘルメットクランプを破損する恐れがあります。必ずヘルメットハウジングをしっかり持って取り外してください。

レインカバーの装着

レインカバーの丸い穴より、レシーバー本体を入れます。

注）カバー後ろ側の蓋の付いている所からは、入れないでください。レインカバーがやぶれる場合があります。また、レシーバー本体をレインカバーに出し入れする際は、レインカバーの先端もしくは、後ろ側の蓋を引っ張らないでください。

レシーバー本体が全て入ったら、全体が密着するよう、指で整え、後ろ側の蓋を閉めます。
レインカバーは、簡易的な物です。完全防水ではありません。雨の中を長時間走行すると、水が浸入する場合がありますのでご注意ください。ヘッドセットハウジングに水がかかった場合、タオル等で水分をふき取り、十分に乾燥させてください。

各部の名称

表示部 LED（赤、青）
バッテリーケース
ボタンC
COOLROBO
ボタン B
ボタン A

小型スピーカー
ヘッドセット
ハウジング接
続コネクター
技術基準
適合証明
シリアルナンバー
高感度マイク

操作方法

初めて、機器を操作する際は、この操作説明及びクイックマニュアルを必ず読み内容を把握した上で操作してくだい。尚、機器の登録作業が出来ない場合には、一度リセット操作を行い、最初からやり直す事をお勧め致します。

・ 電源のオン、オフ

電源オン：ボタン A を約 3 秒間長押しします、ペアリングされていない場合は、自動的にペアリングモードに入ります。（ＬＥＤ表示部が赤、青交互の点滅となります。）

電源オフ：ボタン A を約 5 秒間押します､LED 表示部が高速点滅し、電源が切れます。

・ ペアリングモードの設定方法

ペアリングモードでの注意事項

ブルートゥースのペアリングには、２種類のモード（受信側、送信側）の設定があります。ブルートゥース機器同士をペアリングする際、必ず片方を受信側、もう一方を送信側に設定する必要があります｡両方とも同じモードではペアリングできません。（通常、携帯電話、トランスミッター等は送信側に設定されています｡その機器とペアリングする際レシーバー本体を受信側のペアリングモードに設定します）

又､レシーバー本体にはブルートゥースデバイスを３つ搭載しておりますので､同時に３つの機器を切り替えて使用できます。そのため、複数の機器をペアリングする際、デバイスを切り替える必要があります。

付近にペアリングモードになっているブルートゥース機器があると、その機器が登録されてしまいます。その場合は、その機器の電源を切るか、３０m 以上離れて操作を行なってください。

ペアリングモード（受信側の設定）

何も機器がペアリングされていない場合は、電源オンと同時に自動的にペアリングモード（受信側）に入ります。
（ＬＥＤ表示部が赤、青交互の点滅となります。）

ペアリングモードに入ると、次にデバイスの選択を行ないます。何も選択しない場合はデバイス①のペアリングモードになっています。
デバイスの選択はボタン A・ボタン B・ボタン C を押すことにより選択します。

⚠注意 ２個目の機器をペアリングする場合、電源オフの状態から、ボタン A を約 5 秒間押します。LED 表示部が、赤・青交互の点滅となり、ペアリングモード（受信側）に入ります。

デバイスの選択は、ペアリングモードに入った直後２秒以内に操作してください。（LED が赤・青の点滅）
この操作が遅れると他のデバイスに登録されます。
デバイスにより、ペアリング可能な機器が異なります。
下記を参考に、デバイスを選択してください。

ボタン A＝デバイス①（BAT-01 等トランスミッター）
ボタン B＝デバイス②（携帯電話）
ボタン C＝デバイス③（BSH-01 タンデム会話等）

レシーバー本体をペアリングモードに設定したら、登録する機器も同様にペアリングモードに設定し、１m以内の場所に置いてください。
数秒でペアリングが完了し、LED 表示部が赤・青交互の点滅から、青の点滅に変わります。
１分以上経ってもペアリングが完了しない（青の点滅にならない）場合は、リセット操作を行い、もう一度最初からペアリング操作を行なってください。

ペアリングモード（送信側の設定）

本品を２個使用し、タンデム等で会話する場合、一方のレシーバー本体をペアリングモード（送信側）にて登録する必要があります。

設定方法：電源オフの状態から、ボタン A を約 5 秒間押します。LED 表示部が、赤・青交互の点滅となり、ペアリングモード（受信側）に入ります。さらに３秒間押し続けると、LED の表示が赤・青の高速点滅に変わり、ペアリングモード（送信側）になります。（合計８秒間ボタン A を押し続けます）

ペアリングモード（受信側）と同様にデバイスの選択を行ないます。

＊　デバイスの選択は、LED の表示が赤・青の高速点滅に変わってから２秒以内に行なってください。この操作が遅れると、他のデバイスに設定され、うまく操作できない可能性があります。

＊　途中で指を離してしまった場合は、一度電源を切り、再度操作を行なってください。

タンデム使用でのペアリング

・運転手側

レシーバー本体をペアリングモード（受信側）に設定し、ボタン C を押してデバイス③にペアリングできる状態にしておきます。（P16 参照）

・同乗者側

レシーバー本体をペアリングモード（送信側）に設定し、ボタン C を押し、デバイス③にペアリングできる状態にします。（P17 参照）

数秒後、ペアリングが完了し、LED 表示が赤・青交互の点滅から、青の点滅に変わります。

携帯電話とのペアリング

レシーバー本体をペアリングモード（受信側）に設定し、ボタンＢを押し、デバイス②にペアリングできる状態にしておきます。（P16 参照）

携帯電話側の操作に移ります。

携帯電話に付属の取扱説明書をお読みの上、携帯電話をブルートゥースのペアリングモードに設定してください。
認証コード、ペアリングコード、ＰＩＮコード等を入力する欄がありましたら『0000』を入力してください。

携帯電話の操作に関して不明な場合、携帯電話各社にお問い合わせください。弊社にお問い合わせ頂いても、携帯電話の操作に関しては、ご説明できませんので、ご注意ください。

一例として NTT　DOCOMO
P905ｉの場合の操作方法

1、 Ｐ９０５ｉの『メニュー』ボタンを一回押します。
2、 『Ｌｉｆｅ　Ｋｉｔ』を選択します。
3、 『Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ』を選択します。
4、 『登録機器リスト』を選択します。
5、 『サーチ』を選択します。
6、 『ＭＵＴＩ－ＨＳ』を選択します。
7、 『ＹＥＳ』を選択します。
8、 Ｐ９０５ｉに設定した暗証番号（初期設定は 0000）を入力します。（お客様が設定されている暗証番号を入力します。）
9、 『確定』を押します。
10、 Ｂｌｕｅｔｏｏｔｈの認証コード（0000）を入力します。
11、 『確定』を押します。
12、 レシーバー本体のＬＥＤ表示が青の点滅に変わればペアリング完了です。
13、 『ハンズフリー』『オーディオ』を選択し、『接続』を押します。
以上で操作完了です。

（オプション）トランスミッター（BAT-01）とのペアリング

レシーバー本体をペアリングモード（受信側）に設定し、ボタン A を押し、デバイス①にペアリングできる状態にしておきます。（P16 参照）

トランスミッター（BAT-01）の電源ボタンを押し、電源を入れます。

BAT-01 のペアリングボタンを約 2 秒間押し、LED 表示が緑・赤交互の点滅にします。

操作は以上で終了です、数秒でペアリングが完了します。
（ＢＡＴ－０１が緑点滅。レシーバーが青点滅でペアリング完了です。）

トランスミッターの取扱に関しては、トランスミッターに付属の取扱説明書をお読みください。

その他市販機器とのペアリング例

・ サンワサプライ製ブルートゥースオーディオアダプタ MM-BTAD4 の場合

レシーバー本体をペアリングモード（受信側）に設定し、ボタン A を押し、デバイス①にペアリングできる状態にしておきます。（P16 参照）

MM-BTAD4 の電源/ペアリングボタンを約 6 秒押し続け、ペアリングモードに設定します。

数秒でペアリングが完了します。
この機器を使用すると、ミュージックプレイヤー等と接続し、ステレオ音楽をワイヤレスで楽しむことが出来ます。

・ STANDARD 社製　FTM-10 シリーズの場合

レシーバー本体をペアリングモード（受信側）に設定し、ボタン A を押してデバイス①にペアリングできる状態にしておきます。（P16 参照）

FTM-10 のブルートゥース機能を設定し、フロントパネル側又はリア（本体）のブルートゥースユニットとペアリングします。
PIN コードを入力する欄がありますので 0000 に変更し、ペアリングを開始してください。少し時間がかかりますが、約 10 秒でペアリングが完了します。

FTM-10 と接続する際、スタンダード社オプションのブルートゥースユニット（BU-1）が必要です、タンデムにて使用する場合は、BU-1 を 2 つ使用します。
無線の発信（PTT）の操作は、ボタン C を押すことにより可能です。
その他の操作は FTM-10 本体を操作してください。
又、FTM-10 と接続する場合、レシーバーの他のデバイスには携帯電話等他の機器をペアリングしないでください。動作が不安定になります。

・ 機器の切り替え

レシーバー本体は最大 3 つの機器を登録し、切り替えて使用できます。

3 つのデバイスを接続した状態での操作例

接続中のデバイス	ボタン	押す時間	操作音	機器の動作
デバイス① トランスミッター （BAT-01）	A	長押し（5 秒）	ピーポ	電源オフ
		中押し（3 秒）	―――	使用しません
		短押し（1 秒）	ピッ	音量上げる（再生中のみ）
	B	中押し（3 秒）	ピッピ	デバイス②へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピッ	音量下げる（再生中のみ）
	C	中押し（3 秒）	ピッピッピ	デバイス③へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピー	一時停止
デバイス② （携帯電話）	A	長押し（5 秒）	ピーポ	電源オフ
		中押し（3 秒）	ピー	機能ボタン（一時停止等）
		短押し（1 秒）	ピッ	音量上げる（再生中のみ）
	B	中押し（3 秒）	ピッ	デバイス①へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピッ	音量下げる（再生中のみ）
	C	中押し（3 秒）	ピッピッピ	デバイス③へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピー	発信（機種により異なる）
デバイス③ ヘッドセット （BSH-03） タンデム	A	長押し（5 秒）	ピーポ	電源オフ
		中押し（3 秒）	―――	使用しません
		短押し（1 秒）	ピッ	音量上げる（会話中のみ）
	B	中押し（3 秒）	ピッピ	デバイス②へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピッ	音量下げる（会話中のみ）
	C	中押し（3 秒）	ピッ	デバイス①へ切り替え
		短押し（1 秒）	ピー	会話停止、開始

2 つのデバイスを接続した状態での操作例

接続中のデバイス	ボタン	押す時間	操作音	機器の動作
デバイス① トランスミッター (BAT-01)	A	長押し(5 秒)	ピーポ	電源オフ
		中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピッ	音量上げる（再生中のみ）
	B	中押し(3 秒)	ピッピ	デバイス②へ切り替え
		短押し(1 秒)	ピッ	音量下げる（再生中のみ）
	C	中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピー	一時停止
デバイス② （携帯電話）	A	長押し(5 秒)	ピーポ	電源オフ
		中押し(3 秒)	ピー	機能ボタン（一時停止等）
		短押し(1 秒)	ピッ	音量上げる（再生中のみ）
	B	中押し(3 秒)	ピッ	デバイス①へ切り替え
		短押し(1 秒)	ピッ	音量下げる（再生中のみ）
	C	中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピー	発信（機種により異なる）

タンデム会話のみ使用する場合の操作例

接続中のデバイス	ボタン	押す時間	操作音	機器の動作
デバイス③ (BSH-03)	A	長押し(5 秒)	ピーポ	電源オフ
		中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピッ	音量上げる（会話中のみ）
	B	中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピッ	音量下げる（会話中のみ）
	C	中押し(3 秒)	―――	使用しません
		短押し(1 秒)	ピー	会話停止、開始

＊　信号の出ていないデバイスを選択した場合、そのデバイスから５秒以上信号が入らないと、自動的に信号の出ているデバイスに切り替わります。

＊　デバイスの優先順位はデバイス①＜②＜③の順になっており、デバイス①を再生中、新たにデバイス②から呼び出し信号が入るとデバイス②に切り替わり、ボタン C を押すことにより会話可能になります。

＊　何回も連続してボタンを押すと、機器の動作が不安定になり、LED が高速に点滅する場合があります。その場合は３～５分何も操作せずにお待ちください。動作が戻ります。

＊　デバイスの切り替え操作をしてから、切り替わるまで多少時間がかかります。この間にボタンを押すと動作が不安定になることがあります。

＊　音量調整

通話状態、又は音楽の再生中（スピーカーから音が出ている状態）にボタンＡを押すことによりボリュームアップ、ボタン Ｂ を押すことによりボリュームダウンできます。音量調整は、運転中、周りの音が十分聞こえる適度な音量に設定してください。大きな音量で使用すると、周りの交通の音が聞こえず、事故の要因となる可能性があります。又、耳を傷める可能性もありますのでご注意ください。
（１６段階あり、最小、最大時に操作音が出ます。ボタン操作１回でアップ又はダウンします。押したままでは調整はできません。）

・　オールリセットの方法

電源オフの状態にします。
まず、ボタンＢを先に押し、ボタンＢを押した状態でボタンＡを約５秒間押し続けます。ＬＥＤ表示が赤・青交互の点滅になれば、オールリセット完了です。
オールリセットを行なうと、登録した機器の情報は全て消去されますので、もう一度ペアリング操作が必要になります。

・　電池について

レシーバー本体の作動には単四乾電池を１本使用します。市販のアルカリ電池又は、充電式ニッケル水素電池等を使用してください。
６時間程度の連続使用が可能ですが、電池の性能、音量、通信の状態、通信機器の種類により、使用時間は大きく変化します。バッテリーが消耗すると、ＬＥＤ表示が青色から赤色に変化します、これを目安に電池の交換を行なってください。
本品は、ペアリング機を内部に記憶しております。電源を切ったり、電池を交換したりしても、情報は保持されております。電池交換の際、再度ペアリング操作等は必要ありません。

Q&A

Q： 携帯電話に Bluetooth 機能が付いていません、使用できますか？

A： 使用可能です、しかし、直接接続することは出来ませんので、別売のトランスミッターセット（66667）又は、市販の携帯電話用トランスミッターをお買い求め下さい。

Q： ３人以上で通信したいのですが、可能ですか？

A： 本品は、タンデム会話等、二人までの通話は可能ですが、３人以上で使用する場合、ブルートゥース対応の無線機又は、市販のトランシーバーと別売のトランスミッターセット及び接続ケーブルを組み合わせることにより会話可能です。

Q： 防水性はありますか？

A： 申し訳ございませんが、防水性はありません。付属のレインカバーにて防滴ではありますが、完全な防水ではありません。

Q： 音楽をステレオで聴くことは出来ますか？

A： Bluetooth 対応ミュージック携帯や、Bluetooth 対応ミュージックプレイヤー、市販のステレオトランスミッター等を使用すれば、ステレオ、高音質の音楽を聴くことが出来ます。（別売トランスミッターセットはステレオ再生に対応しておりません）

Q： ツーリングで２台のバイクにて会話したいのですが。

A： 本品の通信可能距離は１０ｍです。１０m以内であれば通信できますが、車間距離が近くなる為お勧めできません。無線機等を併用することをお勧め致します。

Q： 従来型ライドコムシリーズとの互換性はありますか？

A： 申し訳ありませんが、互換性はありません。

オプション品

〈トランスミッターセット〉
BAT-01
品番 66667
￥31,500（税込）
ブルートゥース非搭載の携帯電話、オーディオ、ナビ、トランシーバーを接続可能。

〈無線接続ケーブルセット〉
STANDARD 用〔66668〕
KENWOOD 用〔66669〕
￥5,040（税込）
ブルートゥース非搭載のトランシーバーをトランスミッターに接続する際必要。

補修部品

部品名	商品番号	価格
レシーバー	66659	￥16,800（￥16,000）
レインカバー	66660	￥1,575（￥1,500）
ヘッドセットハウジング	66661	￥5,250（￥5,000）
ヘルメットクランプ	66662	￥1,890（￥1,800）
ステレオスピーカー	66663	￥3,990（￥3,800）
イヤーフック	66664	￥1,050（￥1,000）
ネジセット	66665	￥525（￥525）

製品の保証に関して

本品には、１年間の無償保証期間があります。下記の説明及び保証書の内容を良くお読みの上、ご利用ください。

初期不良に関して
本品は厳重に管理された工場にて生産・管理しておりますが、万が一不良が発生した場合、本品のみ補償対象と致します。
それ以外の部品代金、修理工賃、整備等の費用は補償対象外とさせてくただきます。

水濡れに関して
付属のレインカバーは、簡易的な物であり、完全な防水性はありません。又、本体電池ケース内部に水濡れ検知シールが貼ってあります。このシールが反応している場合、または、このシールが剥れている場合は保証の対象外になります。

外観上本体に大きな外傷、割れ等がある場合、保証の対象外とさせて頂きます。

保証修理を依頼される場合、お買い上げレシート、及び保証書を準備いただき、当社受付窓口又は、お買い求めの販売店様にご連絡ください。
ご連絡無く、商品をお送り頂いても、受付できませんのでご注意ください。
尚、修理の際、機器に登録されているペアリング等の登録情報は全て消去され、オールリセットされた状態での返却となりますので予めご了承ください。

販売店様へ

付属の保証書に、販売店様名、販売日をご記入の上、販売日が分かるレシート等と一緒に、お客様にお渡しください。

仕様

BSH-01 ステレオヘッドセット　製品仕様	
通信方式	Bluetooth　V1.2
出力	-4dbm～2dbm (Power Class2)
最大通信距離	10m（周囲の環境により異なります）
使用周波数帯域	2.400GHz～2.480GHz
技術基準適合	07215244/AA/00
対応 プロファイル	A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) HFP (Hands Free Profile) HSP (Head Set Profile)
使用電源	単４アルカリ　又は 充電式ニッケル水素電池　１本（別売）
持続時間	約６時間（待機時間 120 時間）使用環境、接続機器、音量等により変化します。
質量	18g　（電池含まず）

～MEMO～

お問い合わせ先

株式会社 デイトナ

〒437-0226　静岡県周智郡森町一宮 4805
URL: http://www.daytona-mc.jp
E-mail: info@daytona.co.jp
◎デイトナ商品についてのご質問、ご意見は
「フリーダイヤルお客様相談窓口」
℡　0120-60-4955　まで
（営業時間 9：00～18：00　日曜、祝日除く）

WIRELESS RIDECOM

COOLROBO

with Bluetooth

DAYTONA corp.

68603-20